

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

1月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数14,490件(前月比3.1、前年同月比2.1)でした。例年より早く始まった11月からの増加傾向は1月も続き、2014/2015シーズンのピーク時と同様の大規模な流行に拡大しています。12月末には県内全域で注意報レベルを越え、1月の第2週からは御船を除く全ての地域で警報レベルを超える報告が続いています。特に人吉地区(報告数1578、定点あたり315.6)からの報告が目立ちます。今シーズンは流行初期からインフルエンザB型がA型と混在しているのが特徴です。B型の割合は漸増し続けて、1月第4週には8割に達しました。例年のようにB型の減少とともにインフルエンザの流行が収束していくのか、今後の動向に注意が必要です。

小児科定点

※平成30年1月1日から百日咳は五類感染症（全数把握疾患）となりました。

（全体傾向）

報告数16,566件(前月比2.13、前年同月比1.50)で、前月の2倍以上に増加しました。インフルエンザの流行規模が大きかったことが原因です。その他の疾患は全て減少傾向を示しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数52件(前月比0.6、前年同月比0.6)でした。9月のピーク後は漸減しています。報告の大半は2歳以下の乳幼児です。菊池地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数103件(前月比0.4、前年同月比1.3)でした。5月以降例年よりも多い件数で推移していましたが、1月は大きく減少し例年並みの報告数です。菊池地区からの報告が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数200件(前月比0.8、前年同月比0.7)でした。昨年7月から200件前後の横ばい状態が続いています。人吉・菊池地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,267件(前月比0.7、前年同月比0.5)でした。10月から漸増していましたが今月は減少に転じ、例年と同様の推移です。有明・山鹿・菊池・八代、次いで御船からの報告が多いようです。
5. 水痘 : 報告数65件(前月比0.7、前年同月比0.4)でした。昨年4月からは毎月二桁の報告が続き、大きな変動はみられません。阿蘇を除く各地域からの報告でした。
6. 手足口病 : 報告数73件(前月比0.4、前年同月比0.5)でした。7月のピーク以降は減少傾向が続いていて、例年並みの推移です。菊池・有明・八代からの報告が目立ちます。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は3件(前月比0.5、前年同月比0.3)、熊本・山鹿・有明地区からの報告でした。2016年秋から低水準で推移し、昨年の6月以降は毎月一桁の報告が続いています。
8. 突発性発疹 : 報告数104件(前月比0.9、前年同月比0.8)でした。例年と同様の推移です。2歳以下の報告のみでした。
9. ヘルパンギーナ : 報告数15件(前月比0.3、前年同月比0.2)でした。7月のピーク以降は減少傾向が続いていて、例年並みの推移です。天草地区からの報告が11件でした。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数18件(前月比0.5、前年同月比0.1)でした。昨年からの漸減傾向は今月も続

き、過去3年間の最低件数を更新中です。4～6歳に15件の報告でした。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数39件(前月比0.8、前年同月0.7)と減少しています。熊本34件、菊池2件、有明3件の報告です。年齢別では20～39歳にピークがありますが、50～69歳台にも散発しています。乳幼児層には流行の兆しはありません。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：
報告数46件(前月比1.0、前年比0.9)で、前月比では2件増加、前年比ではやや減少しています。男女別は、男性に28件と多く見られました。年齢別は、男性は20～34歳に18件と多く、女性は20～29歳に16件と多く見られています。地区別は、熊本が35件と圧倒的に多く、次いで有明5件、御船3件、菊池、八代、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数19件(前月比1.1、前年比1.1)で前月比、前年比ともやや増加しています。男女別は、女性に10件とやや多く見られました。年齢別は、男性は25～59歳、女性も20～70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が14件と多く、次いで宇城3件、菊池、八代に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ：
報告数10件(前月比1.1、前年比1.4)で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、すべて男性でした。年齢別は、男性の30～34歳に4件と多く見られました。地区別は、熊本9件と圧倒的に多く、次いで宇城1件でした。
4. 淋菌感染症：
報告数21件(前月比1.5、前年比1.0)で、前月比では増加、前年比では1件減少していました。男女別は、男性19件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は20～34歳に12件と多く見られ、女性は15～24歳に2件見られました。地区別は、熊本16件と圧倒的に多く、次いで有明2件、菊池、御船、宇城に各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数25件(前月比1.1、前年同月比1.2)でした。ここ4年冬から春まで増加傾向となっていますので要注意です。19件(76%)が70歳以上と多くなっていました。14歳以下では1～4歳に1件のみでした。阿蘇6件(定点あたり6.0)、人吉4件(4.0)、有明4件(4.0)が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数7件(前月比2.3、前年同月比1.4)でした。ここ4年冬から春まで増加傾向となっていますので要注意です。有明6件(6.0)と多くなっています。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数0件(前月比、前年同月に同じ)でした。前年1月以降の報告は4月の1例のみと少なくなっています。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数2件（前月 +2、前年同月比 2.0）でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数3件（前月比 3.0、前年同月 +3）でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数4件（前月比 0.6、前年同月比 0.2）でした。前年の春から鎮静傾向が続いています。水俣2件（2.0）、人吉2件（2.0）の報告です。年齢は5-9歳が3件と多く、10-14歳が1件でした。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月、前年同月に同じ）でした。前々年12月に1例報告があった以降は報告がありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数0件（前月、前年同月に同じ）でした。ここ4年1月～7月に多い傾向があり今後要注意です。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	19件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： 報告はありませんでした。	
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	急性脳炎	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
	梅毒	8件
	百日咳	2件